

「なすかしの森 ボランティア養成研修」報告

令和元年5月11日（土）～令和元年5月12日（日）1泊2日

【目的・趣旨／概要】

主に当施設で子供たちの体験活動を支援するために必要な知識・技術を学習し、当機構法人ボランティアの養成を図る。

【連携先】

- ・福島大学 科目名「ボランティア論」（初澤敏生 教授）
- ・郡山女子大学短期大学部 科目名「ボランティア活動」（山口猛 准教授）
- ・郡山女子大学 ボランティアサークル（善方美千子 助教）
- ・白河消防署西郷分署 救急救命士



【募集対象／実績】

《募集対象》高校生，短大生，大学生，専門学校生，社会人 30名程度募集

《実績》高校生18名 短大生5名 大学生18名 専門学校生1名 社会人4名
先輩法人ボランティア4名 引率教授1名
合計51名 （内，新規法人ボランティア登録40名）

【プログラム概要】

演習Ⅰ 「野外炊事（ボランティア活動の技術）」

講師：国立那須甲子青少年自然の家 事業推進係主任 宮崎 一彰

危険予知トレーニングと、アイスブレイキングをかねて、カレーライスをグループごとに調理。初めに、野外炊事のイラストから危険箇所を話し合った。その中で、これからボランティアとして活動する上で、子供たちに対して注意すべき点などに気づくことができた。

また、実際の調理活動では、火起こしや、調理手順など、分担や試行錯誤をしながら体験を通して楽しく活動することができ、十分なアイスブレイクとすることができた。

講義Ⅰ 「青少年教育施設ってこんなところ！（青少年教育施設の現状と運営）」

講師：国立那須甲子青少年自然の家 所長 津久井 賢

当機構による青少年の定義や、青少年の実態についての講義を行った。当機構による調査結果や、法制度を基に、青少年教育施設の役割について理解することができた。また、当施設の目指す姿などについての話題もあり、当施設の教育的機能についても理解を深めた。

講義Ⅱ 「体験活動っていいことたくさん！（青少年理解）」

講師：国立那須甲子青少年自然の家 次長 蓮見 直子

青少年にとっての体験活動の意義や、今と昔の青少年を取り巻く状況などについて、参加者の体験をもとに講義を行った。また、よりよい体験活動とは何か、ということについて参加者同士で話し合いを行い、考えを深め合った。

演習Ⅱ 「普通救命講習Ⅰ」

講師：国立那須甲子青少年自然の家職員（応急手当普及員）

白河消防署西郷分署 救急救命士

応急手当普及員の資格を持つ当施設職員と、消防署の救急救命士の方を講師に招き、市民による応急処置の重要性について学んだ。実際に処置に当たれるように、胸骨圧迫による心肺蘇生法や、AEDの操作方法などについても実践を伴って学ぶことができた。

講義Ⅲ 「ボラ活動って楽しいよ！！（ボランティア活動の意義）」

講師：国立那須甲子青少年自然の家 ボランティアコーディネーター 増田直人
法人ボランティア

当施設での活動経験のある法人ボランティアの体験談を聴いたり、参加者個人個人のボランティアの経験談を語り合ったりした。「えんたくん」というコミュニケーションを活性化させるツールを活用し、多くの考えを共有することで、それぞれの思い描くボランティア活動の意義について考えを深めることができた。

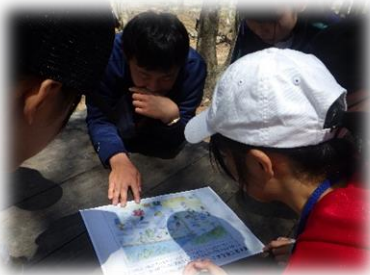
説明 「こんな活動しています～自然の家でのボランティア活動～」

講師：国立那須甲子青少年自然の家職員（各事業担当者）

ボランティアコーディネーター 増田 直人

実際に法人ボランティアとして活動することになる教育事業について各事業担当者からの説明を聞いた。また、機構の法人ボランティアの制度や、実際にボランティア活動するための手続きについての説明もあり、登録の手続きを行った。

最後に、今年度の活動に対しての決意をそれぞれ表明した。



【成果】

- ・福島大学や郡山女子大学との授業連携を行ったため、多くの学生の参加があった。
- ・高等学校に直接出向いたり、近隣市町村の広報誌に掲載したりすることができたため、多くの高校生の参加があった。
- ・一つ目のプログラムとして、野外炊事を行ったが、アイスブレイクとしての狙いを達成することもでき、そのあとの講義にもつなげることができた。
- ・夜に参加自由プログラムとして茶話会を行ったが、30人以上の参加があり、情報交換と交流の場として有意義な時間となった。
- ・「えんたくん」を活用したことで、たくさんの参加者同士が意見を交流し、考えを深め合うことができた。
- ・事業紹介で、当施設職員が多く参加したことで、当施設でのボランティア活動に対して、前向きに考えるきっかけとなった。

《参加者の声》

「初めに野外炊事で緊張したけど、協力して仲良くなれたので良かった。」「講義のスライドが整理されていてわかりやすかった。」「ほかの人の考えを知ることができ、視野が広がった。」「えんたくんが面白かった。」「とても濃い2日間でした。」「ボランティアをしてみたいと思いました。」等

【課題と方策】

- ・午後の時間に講義が2つ続いたのは、参加者にとって負担であった。
- ・普通救命講習が、2日間にまたがってしまったため、流れが途切れてしまった。
- ・プログラムの流れには再考の余地がある。
- ・法人ボランティアの登録手続きの際に、保護者と相談してからという理由で保留する高校生の参加者もいたので、募集の際に法人ボランティアについてもう少し詳細な説明が必要であった。

国立那須甲子青少年自然の家【作成】企画指導専門職：増田 直人